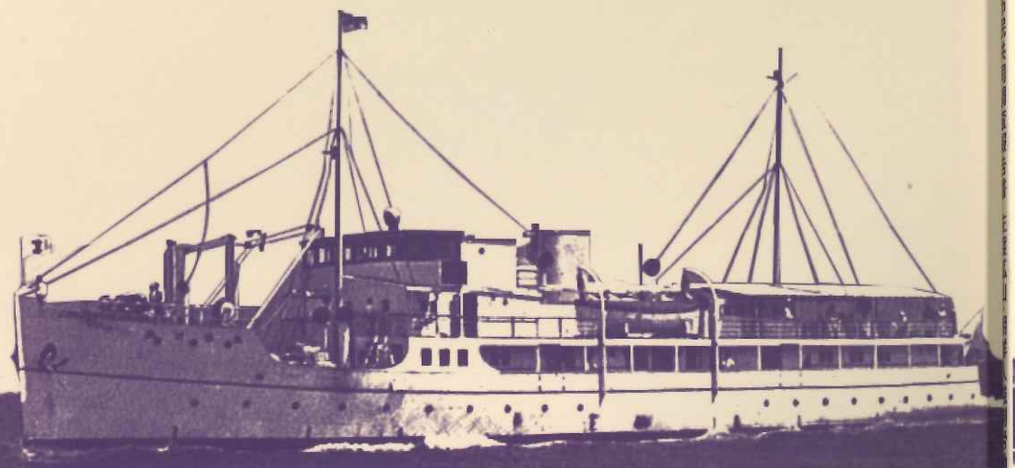
日韓市民共同調査報告書『佐渡鉱山・朝鮮人強制労働』発刊

　真相究明ネットワークと韓国の民族問題研究所の共同調査により、『佐渡鉱山・朝鮮人強制労働』が刊行されました。佐渡鉱山での朝鮮人強制労働の実態を史料と証言によって明らかにしています。資料には 120 人を超える朝鮮人被害者の記録が収録されています。

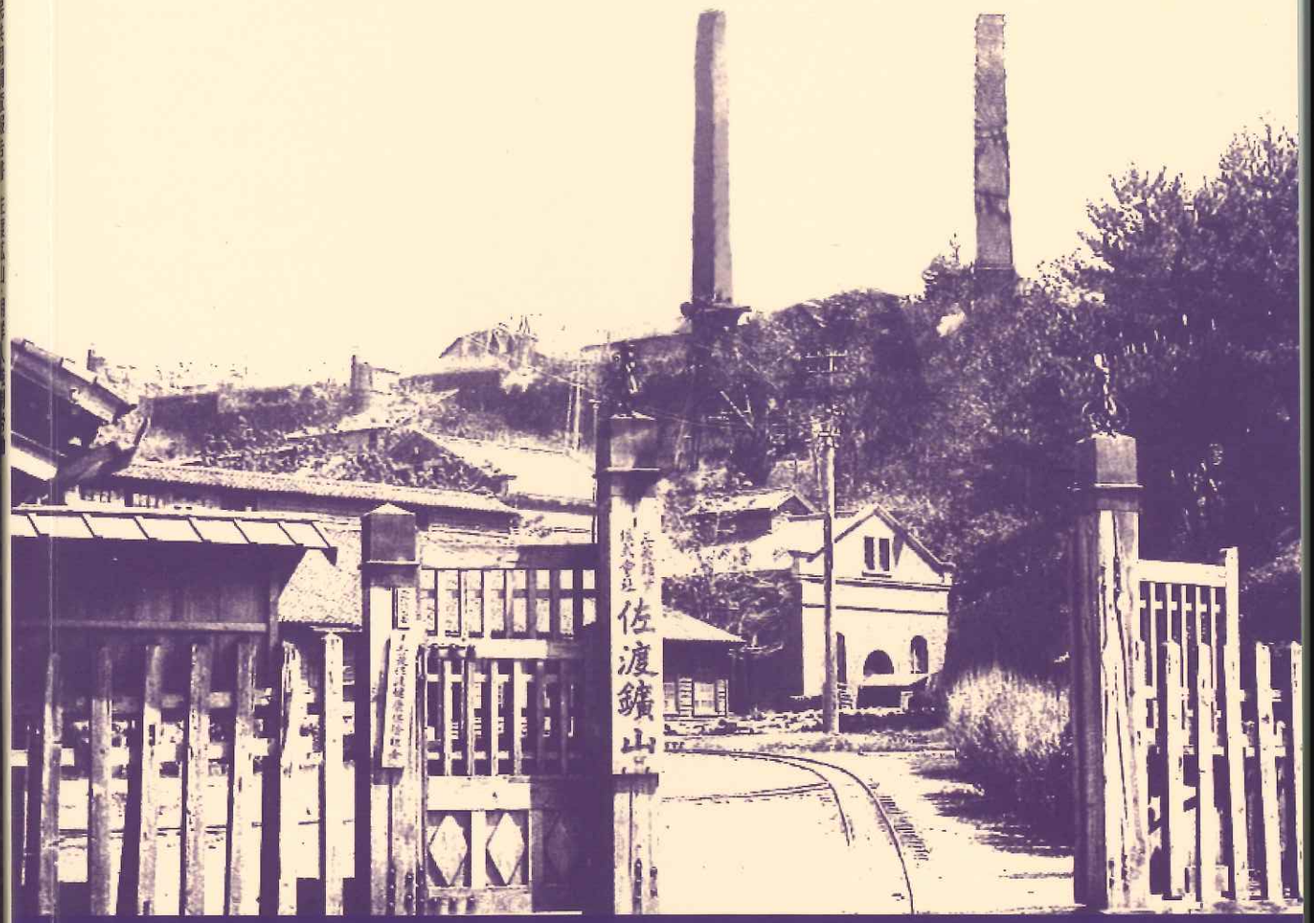
B5 版、71 頁、2022 年 10 月、頒価 1000 円（送料とも）
編集・発行：強制動員真相究明ネットワーク＆民族問題研究所（韓国）
連絡先：〒657-0051 神戸市灘区八幡町 4-9-22　神戸学生青年センター内
　　強制動員真相究明ネットワーク

購入希望者は、前金で、郵便振替＜00930－9－297182　真相究明ネット＞に1000 円を送金ください。



日韓市民共同調査報告書

佐渡鉱山・朝鮮人強制労働



世界遺産推薦にあたり、日本政府は
朝鮮人強制労働の事実を認め、歴史全体を記すべき

強制動員真相究明ネットワーク・民族問題研究所

目次

発刊にあたり …… 5

解説

I. 佐渡鉱山について …… 8
1. 佐渡鉱山はどのようなところですか …… 8
2. 近代以降、佐渡鉱山はどのように経営されましたか …… 9
3. 近代の労務支配はどのようなものでしたか …… 10
4. 労働者による抵抗はありましたか …… 11
5. 佐渡鉱山にはどのような近代遺産がありますか …… 12

II. 朝鮮人強制労働について …… 16
1. 朝鮮人強制連行はどのように行われましたか …… 16
2. 佐渡鉱山には朝鮮人がどれくらい動員されましたか …… 18
3. 朝鮮人はどのように働かされましたか …… 19
4. 朝鮮人の抵抗・逃亡はありましたか …… 23
5. 負傷・死亡事故などはありましたか …… 24

III. 世界遺産で強制労働を語り伝える意義について …… 26
1. 世界遺産で強制労働の歴史を示すものがありますか …… 26
2. 強制動員の真相究明の運動はどのようなものですか …… 27
3. 明治産業革命遺産の問題点は何ですか …… 28
4. 佐渡鉱山の推薦書の問題点をあげてください …… 30

資料

I. 朝鮮人強制労働の実態に関する歴史資料 …… 32
1. 日本鉱山協会「半島人労務者ニ関スル調査報告」
『日本鉱山協会資料』第78輯、1940年12月 …… 32
2. 佐渡鉱業所「半島労務管理ニ付テ」1943年 …… 33

3.「労務動員計画に基く内地移住朝鮮人労働者の動向に関する調査」
司法省刑事局『思想月報』第79号、1941年1月 …… 34
4. 樺太庁「警察公報」551号、1941年12月15日 …… 35
5. 内務省警保局『特高月報』1942年、1943年 …… 35
6.「相愛寮煙草配給台帳」 …… 36
7. 相川警察署「休戦後二於ケル移入朝鮮人労務者ノ動静二関スル件」
1945年9月11日、新潟県警察部特別高等課
『昭和20年内鮮関係書類綴② 警察署長報告』 …… 37
8. 未払金供託原簿 受付第229号 …… 38
9. 平井栄一『佐渡鉱山史』太平鉱業(株)佐渡鉱業所、1950年 …… 38
10. 新聞 …… 40

II. 朝鮮人強制労働の実態に関する地方自治体の文献 …… 43
1.『新潟県史 通史編8 近代3』新潟県、1988年 …… 43
2.『佐渡相川の歴史 通史編近・現代』相川町、1995年 …… 43

III. 日本人労務係の記録 …… 45
1.「杉本奏二手記」1974年 …… 45
2.「渋谷政治聞き取り資料」1973年、1979年 …… 46
3. 坂上寅吉証言『毎日新聞 新潟版』2002年2月24日 …… 47

IV. 強制動員被害者の証言・記録 …… 48
1. 忠清南道論山郡からの強制動員 …… 48
2. 忠清南道扶余郡からの強制動員 …… 54
3. 忠清南道燕岐郡・公州郡からの強制動員 …… 57
4. 忠清南道青陽郡からの強制動員 …… 58
5. 忠清北道清州郡からの強制動員 …… 60
6. 全羅北道益山郡などからの強制動員 …… 64
7. 全羅南道珍島郡などからの強制動員 …… 66
8. 江原道(当時)蔚珍郡からの強制動員 …… 68

参考文献 …… 69

発刊にあたり

日韓市民共同調査報告書「佐渡鉱山・朝鮮人強制労働」は、日本の強制動員真相究明ネットワークと韓国の民族問題研究所が共同で企画・制作しました。

2022年1月下旬、日本政府は佐渡鉱山の世界遺産登録の推進を決定しましたが、佐渡鉱山に関する遺産の対象時期を江戸時期に限定し、「伝統的手工業で行われた金生産システムの最高到達点」という生産技術の賛美に焦点をあてています。「明治日本の産業革命遺産」と同様に、歴史全体は示さず、戦時の強制労働の詳かな説明はありません。

そのため、強制動員真相究明ネットワークと民族問題研究所は、日韓市民の共同作業により、佐渡鉱山の歴史がどのように説明されるべきかを示すことにしました。この共同調査報告書は、金・銀・銅を産出した佐渡鉱山の明るい面だけでなく、暴力的な労務管理や労働災害など、負の歴史にも光を当てています。

この共同調査報告書の作成にあたり、新潟や佐渡の市民によって1990年代初頭から行われてきた佐渡鉱山朝鮮人強制動員に関する調査活動の成果から多くのことを学びました。2000年に発表された広瀬貞三元新潟国際情報大学教授の論文「佐渡鉱山と朝鮮人労働者(1939～1945)」は作業の道標となりました。2019年以降も日本と韓国で佐渡鉱山朝鮮人強制動員に関する新しい研究が発表され、文献史料、証言記録など様々な資料の発掘が続いています。強制動員真相究明ネットワークは数多くの収集史料、写真、講演資料を提供しました。

民族問題研究所は、関連資料を収集するとともに、韓国の被害者たちが韓国政府に提出した強制動員被害の申告記録を分析しました。強制動員被害の申告記録には、動員時期と経緯、移動経路、労働環境と処遇、帰還後の人生が記され、それらは佐渡鉱山における強制労働の実態を立体的に示すものです。ここでは124人の動員被害者の名前と実態、18人の死亡者名とその状況を記しました。

この報告書では、日本の市民や研究者が発掘してきた関連文献史料と韓国の被害者証言を照合し、佐渡鉱山での朝鮮人強制労働の歴史を多角的に描きだすことに努めました。この強制労働被害の歴史の記録は、強制労働の歴史否定論者たちの誤りや偽りを示すものです。強制動員被害に対して日本政府と三菱マテリアルは、戦時の強制労働の歴史を認め、資料を公開し、被害者の救済のために歴史的責任をとるべきです。

世界の市民に世界遺産としての価値を伝えるにあたっては、強制労働犠牲者を記憶し、被害者の声に耳を傾けることが必要です。今回の日韓市民による共同報告書が、佐渡鉱山を理解するためのガイドラインになることを願います。

金山教勇「歴史とのたたかい朝鮮人強制連行のこと」『エコロジーとにんげん』1、ネットワーク誌編集委員会・新潟社会文化会館、1992年4月
末田年雄「道遊の山に生きた人達」1993年
野村穂輔『御霊によって歩きなさい』福音宣教会、1993年
『佐渡相川の歴史 通史編近・現代』相川町、1995年
林道夫「戦争責任は問われ続ける佐渡鉱山、強制連行補償問題」『エコロジーとにんげん』12、ネットワーク誌編集委員会・新潟社会文化会館、1996年3月
過去・未来 佐渡と韓国をつなぐ会「佐渡金山・朝鮮人強制連行問題の調査活動とこれからの活動」『まなぶ』457、労働大学出版センター、1996年10月
林道夫「佐渡相川三菱鉱業所 朝鮮人強制労働問題の調査と課題について」1997年
広瀬貞三「佐渡鉱山と朝鮮人労働者(1939～1945)」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』3、2000年
朝鮮人強制連行真相調査団『朝鮮人強制連行調査の記録 関東編1』柏書房、2002年
『新聞などに見る新潟県内韓国・朝鮮人の足跡』第2集、新潟県高等学校教職員組合平和教育研究委員会、2006年
『旧佐渡鉱山近代化遺産建造物群調査報告書』佐渡市、2008年
『新潟県内における韓国・朝鮮人の足跡をたどる』新潟県高等学校教職員組合平和教育研究委員会、2010年
小林祐玄「佐渡鉱山の近代部屋制度」『佐渡地域誌研究』11、2013年
『近代の佐渡金銀山の歴史的価値に関する研究 2013年度調査報告書』新潟県、2014年
『佐渡相川の鉱山都市景観 保存調査報告書』佐渡市、2015年
『佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観(保存計画書)』佐渡市、2017年
鄭恵瓊『日本地域の炭鉱鉱山における朝鮮人強制動員の実態 三菱鉱業(株)佐渡鉱山を中心に』日帝強制動員被害者支援財団、2019年(日本語版、2021年)
金敏喆「佐渡鉱山と朝鮮人強制動員」2021年(日本語版・強制動員真相究明ネットワーク、2022年)
鄭恵瓊「資料から見た三菱佐渡鉱山朝鮮人強制動員の実態」『佐渡鉱山の強制動員歴史歪曲』日帝強制動員被害者支援財団学術セミナー資料集、2022年
広瀬貞三「資料紹介 朝鮮人労働者と佐渡鉱山、三菱鉱業の史料(1)」『福岡大学人文論叢』54―1、2022年
竹内康人「佐渡鉱山と朝鮮人強制労働」強制動員真相究明ネットワーク講座資料、2022年
「強制労働の否定を問う 佐渡鉱山の遺産価値を深めるために」第14回強制動員全国研究集会資料集、強制動員真相究明ネットワーク、2022年
「韓国・日帝強占下強制動員被害申告調査記録」(韓国・国家記録院蔵、ユネスコ韓国委員会提供)
「過去・未来 佐渡と韓国をつなぐ会資料」(過去・未来 佐渡と韓国をつなぐ会蔵)
「佐渡鉱山労働者を追悼する集い資料」(佐渡扉の会蔵)

強制動員真相究明ネットワーク

韓国の「日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会」の活動を支援するために、2005年7月全国各地から数多くの市民が参加し結成。これまで全国的な強制動員被害者の遺骨に関する調査や、未払賃金の供託問題、郵便貯金の問題など韓国の委員会と協力・連携しながらその実態の解明や情報公開などを日本政府に求める活動を展開。2022年8月、佐渡鉱山のフィールドワークを実施。

民族問題研究所

韓国近現代史の争点と課題を解明し、過去清算を推進するために、1991年2月、市民の力で韓国ソウルに設立。『親日人名事典』、『日帝植民統治機構事典』、『在日朝鮮人団体事典』など事典の編纂と発刊、強制動員被害者・遺族への聴き取りや裁判支援、歴史教科書国定化阻止運動など、学術研究と実践運動を同時に行い、展示・教育・国際連帯行動も展開。2018年8月、韓日市民の力を集め、ソウル龍山に「植民地歴史博物館」を建設。

日韓市民共同調査報告書
佐渡鉱山・朝鮮人強制労働

編　集　強制動員真相究明ネットワーク・民族問題研究所
発行日　2022年10月1日
連絡先　**強制動員真相究明ネットワーク**
〒657-0051 神戸市灘区八幡町4-9-22
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019
URL ksyc.jp/sinsou-net

民族問題研究所
〒4310, Seohyeon B/D, 27, Cheongpa-ro 47 da-gil, Yongsan-gu, Seoul, Korea
TEL (+82)-2-969-0226 URL www.minjok.or.kr